

平成30年度第1回沖縄県がん診療連携協議会 離島・へき地部会議事要旨

日 時 : 平成30年7月24日(火) 15:10~17:10

場 所 : 琉球大学医学部附属病院 がんセンター

構成員 : 12名

出席者 : 5名

戸板孝文(中部病院)、尾崎信弘(八重山病院)、赤松道成(北部地区医師会病院)、我如古春美(北部地区医師会病院)、増田昌人(琉球大学医学部附属病院がんセンター)

<スカイプ参加> 5名

松村敏信(宮古病院)、平良弘子(宮古病院)、平良美江(八重山病院)、真栄里隆代(ゆうかぎの会)、田盛亜紀子(やいまゆんたく会)

欠席 : 2名 朝倉義崇(中部病院)、友利寛文(那覇市立病院)

陪席者 : 2名 吉田幸生(中部病院)、城間彩乃(琉球大学医学部附属病院がんセンター)

<協議事項>

1. 琉球大学医学部附属病院がんセンター長挨拶

琉大病院がんセンター長増田より、開会の挨拶があった。

2. 各委員自己紹介

資料1の名簿に基づき、各委員の自己紹介があった。

3. 委嘱状授与

増田委員より、各委員に委嘱状が授与された。

尚、スカイプ会議の委員には、後日、郵送にて委嘱状を送付することとなった。

4. 部会の年間計画について

5. 部会の活動方針スケジュールについて(今後3年間程)

増田委員より、資料2(平成29年度にがん政策部会が作成した、離島・へき地のロジックモデル)に基づき、説明があった。(協議事項4と5はまとめた協議となった。)

資料2を作成した経緯と第3次沖縄県がん対策推進計画(2018-2023)の概要、(離島・へき地に関する)全体目標、分野目標と施策等の説明があった。また、ロジックモデルの施策、中間アウトカム(約3年後)、最終アウトカム(6年後)の設定に関する、意味合い・時間軸等の説明があった。

今回の部会にて、離島・へき地部会の中間アウトカム、最終アウトカムについて、目標の文言を協議したいと依頼があった。

<最終アウトカムについて>

(たたき台) 離島およびへき地のがん患者が、安心・安全・適切な医療を受けられている
各委員より以下の意見があがった。

・適切な医療とは、解釈の幅が広がってしまい、曖昧に聞こえる。あえて標準治療という文言がよいのではないか。

- ・標準とは、①医療用語の標準②政治的な意味の標準 で意味合いが変わってくる。(政治の) 施策の標準というものはない為、適切なほうがよいのではないか。
- ・てにをはの指摘だが、安心・安全に・適切な医療を受けているが文章として適切なのではないか。

【最終アウトカムの決定】

離島およびへき地のがん患者が、安心・安全に・適切な医療をうけられている

<中間アウトカムについて>

① (たたき台) 離島・へき地に住む患者さんが、地元の医療機関で標準治療が受けられる環境が整っている各委員より以下の意見があがった。

- ・地元の表現が曖昧ではないか。地元とは何を指しているのか(離島・へき地、それとも連携を含めての沖縄県)。
- ・地元という表現で十分伝わると思う。
- ・離島で治療が完結する疾患と前立腺がんのような放射線治療が必要な疾患を区別する必要があるのではないか。
- ・地元と(沖縄)本島の医療機関との連携によってという文言がよいのではないか。連携という言葉は必要だと思う。
- ・疾患別に中間アウトカムを作る方法もあるが、話がかなり細かくなると思う。

【中間アウトカムの決定①】

離島・へき地に住む患者さんが、地元と本島との医療機関の連携によって標準治療が受けられる環境が整っている

② (たたき台) 離島・へき地のがん患者が、地元でできるがん治療についての十分な知識をもったうえで、自ら治療する医療施設を選択している

各委員より以下の意見があがった。

- ・自ら治療する医療施設を選択するというのは、地元・離島・本島(もしくは本土)含めた総括の意味なのか? 幅広いという意味あいではこの表現でよいと思う。
- ・(患者さんが) 選んだ施設が適切な医療機関であるかの判断が重要である。
- ・(患者さんへの) 医療機関の情報提供が重要である。

【中間アウトカムの決定②】

離島・へき地のがん患者が、地元でできるがん治療についての十分な知識をもったうえで、自ら治療する医療施設を選択している

③ (たたき台) 離島・へき地のがん患者が、十分な経済的支援が受けられている

各委員より以下の意見があがった。

- ・現在、(八重山や他の離島では) 十分な経済的支援は受けられていない。
- ・十分な経済的支援という表現が抽象的ではないか。幅広く感じる。治療をうけるための～という文言をいれたほうがよいのではないか。
- ・経済的という表現は限定的である(お金だけ)。社会的支援のほうが適切ではないか。
- ・幅広い意味を持たせるため、経済的をとって、支援がうけられていると表現したほうがよいのではないか。
- ・社会的支援に、患者の渡航費、滞在費(本人・家族)を含めた意味合いを持たせたい。

【中間アウトカムの決定③】

離島・へき地のがん患者が、十分な社会的支援が受けられている

6. 次回の開催日程と開催頻度について

次回の開催日について、5つの日程候補があがっていたが、後日、メールにて調整することとなった。
また、今後の部会開催曜日は、火曜日となった。(火曜日が都合よろしい方が多数の為)

7. その他

増田委員より、次回の部会までに、沖縄県の離島・へき地に関する、地域がん登録のがん種のデータ、医師の人数、認定看護師の人数、薬剤師の人数等の一覧表を作成すると報告があった。

次回の部会で一覧表を基に、具体的な施策を協議することとなった。

<部会長、副部会長について>

増田委員より、部会長1名、副部会長2名の選出の依頼があった。

離島・へき地部会ということから、部会長に八重山病院の尾崎先生が推薦された。また、副部会長に宮古病院の松村先生、北部地区医師会病院の赤松先生が推薦された。其々ご本人の同意が得られたため、上記3名で承認された。

部会長 八重山病院 尾崎信弘先生
副部会長 宮古病院 松村敏信先生
副部会長 北部地区医師会病院 赤松道成先生